

第9回 おごおり俳句&ウォーキングを開催しました！



11月7日（土）、俳人種田山頭火ゆかりの地である小郡をウォーキングしながら俳句を楽しむ「第9回おごおり俳句&ウォーキング」を行いました。

今年は新山口駅（旧小郡駅）開業120周年ということもあり、鉄道をはじめとした交通関係の場所を巡りました。



あいにくの小雨でしたが「雨の中の吟行も一興」と吟行を開始しました。当館専門員が解説を入れながら

新山口駅⇒旧小郡機関庫⇒古林通り（明治通り）⇒ばんやばしの碑⇒旧山口大神宮参道
⇒白髭社⇒西栄商店⇒藤本金物店⇒道標⇒旧宮市屋旅館 を吟行しました。

途中、地域の方にもお話を伺うことができ、参加者一同楽しい時間を過ごせました。11時ごろに資料館に到着し、休憩をしてから作句を始めました。今年も力作ぞろいの結果となりました。

第九回 おごおり俳句&ウォーキング（山口市小郡文化資料館）

令和二年十一月七日（土）

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
冬の日や行く先願ひ白髭社	火恋しの駅SLの熱気湧く	オリーブの実たわわ支へる竹の太さか	さりげなく小雨にひかる藍の花	金物店歴史を偲ぶ時雨かな	たたずみて機関区望む菊の雨	枇杷の花ぐるりと暗渠巡る町	時雨るるや0番線に待ち合はす	おつとりと江戸はあちらと時雨傘	秋の雨機関庫車輛の厂史聞く	小鳥来るとんがり屋根の歯医者には	広がれり機関庫からか文化の日	座敷豚おいでおいでと秋の嶺	藤本金物店歴史語れよ	初しぐれぶら小郡の暗渠かな	五代目の店主赤シャツ冬に入る	明治通り小犬の散歩冬近し	金物屋に脈打つ昭和今朝の冬	山口線は学生多し鶉むるる	なまこ壁往時を語る時雨かな	機関趾鉄路の錆びや冬浅し	機関庫の鉄のひと色冬に入る	冬のもやクレーンものうげホテル建つ	秋の空百二十年まであと少し	秋時雨そぞろ歩きの旧街道
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26
神無月神不在のほこら詣でみて	大看板軒にどうどう冬向え	道ありて人住い来る石露の花	小郡の空町しぐれなつかしい	秋深し暗渠の水と時流る	大根足吟行馴染み足モデル	海鼠壁の見て来し歴史小鳥来る	店売りも今では通販秋の空	白髭社は半坪ばかり実南天	近道の路地裏楽し草の花	秋深む旅先ちがう道標	赤きシャツ着こなす翁冬に入る	末枯や岸駒の虎は長持に	オリーブの実の渋きこと初味して	右京へ左石見へ草紅葉	この下はかつての水路秋深む	マスクして旅人となる0番線	暗渠てふいつもの道や蚯蚓鳴く	自動車が走る姿と秋の風	軒ひくく時雨受け止め鉢の花	古い家のなまこ壁オリーブの実たわわ	秋しぐれ国鉄時代の繁華街	落葉踏み時の流れを巻き戻す	なまこ壁ある庭の色かへぬ松	逝く秋や軒に矜持の大看板

第九回 おごおり俳句&ウオーキング（山口市小郡文化資料館）

令和二年十一月七日（土）

75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	
ストーブの小さく点す金物屋	山頭火のこぼれ話や石蔭の花	説明を掻き消す貨物冬に入る	店先は江戸への道や冬はじめ	御旅所の賑わい昔冬薔薇	立冬や厂史を語る海鼠壁	石一つ立てて地神や蔭の花	ぺちやくちや少なくチャポチャポランランラン	教会の白き板塀鶏頭花	番屋橋川はいづこや冬きざす	冬立つ日鉄路の町の路地歩き	学芸員お兄ちゃん大きいこれは良いこと	白髭社の謂れを知るや草の花	初しぐれ道は幾度か名を変へて	豪商の名残いまだに秋深む	熟るるまま残る無花果古屋敷	0番のイロハ紅葉を小糠雨	長寿てふ純喫茶の香小鳥来る	ももせまで見たき機関区鉄子冬	カリンの木覚悟の朝に実の固さ	ほろよいの新酒深しか吟行か	レプリカの道標どしり冬紅葉	秋空に掲げて重い金物商	心がわり紅葉色づく新世界	こぬかあめ紅葉の色をやさしゆうす	
100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	
										出番待つ赤いディーゼル草紅葉	秋深し分岐点にて右は江戸	縦横に暗渠のけはひ冬の薔薇	小雨降る路地の片隅山茶花咲く	時雨つゝ機関庫を出る黄の車両	あの時の君との別れ石蔭の花	山茶花の咲き初む角に道標	晩秋や昔のにぎはひ道標	晩菊や右は江戸へと道標	なまこ壁昔を偲ぶ時雨かな	街道になまこ壁あり柿落葉	色変へぬ松や江戸へ石見へ道標	ジーンズの八十六齡小菊活く	マスク掛け元号の町吟行す		小郡はやはりハイクでオタク